

# 専念寺通信

## 専念寺通信

二月号 (NO. 114)



<http://sennenji.s.296.xrea.com/>

お正月がおわって、はや如月、わりあいにおだやかな日が続いています。インフルエンザも少しおさまってきたようです。みなさま、おかわりなくお過ごしですか？『通信』2月号をお届けします。

☆節分 2月3日は節分です。季節のかわりめ、そのはじめをそれぞれ立春、立夏、立秋、立冬とよび、その前日のことをせつぶんと呼んでいました。そもそもは「季節をわけること」を意味する言葉ですが、江戸時代以降、毎年、立春の前の日をさして呼ぶようになりました。節分といえば、豆まきです。みなさまのお宅でも、お父さんが鬼になったりして小さい頃に「鬼はそと、福はうち！」と大声を出して豆を撒いたことがおありではないでしょうか。誰かが鬼の役をしなくても、邪気を払い、無病息災を祈願する気持でこの習慣は続けられてきました。

### ☆ 新しい試み

政権がかわり、大臣がみな変わり、私たちが今まで接してきたことのないニュースが報道されるようになりました。長年の慣例をひとつひとつ見直して、いくつかの物事をやめる方向にしたり、C型肝炎に関する新しい法律が作られる方向になったり、たいへんに変化の多いこの半年でした。昨年末から、政権のトップの人たちにまつわる金銭的な疑惑が大きくとりあげられるようになり、私たちの中に「またか。」とがっかりする気持ちが生まれたことはいなめません。報道のされかたも、持ち上げる時は英雄のように持ち上げ、さて落とす時はひたすらある一面だけをこぞって繰り返す・・・という印象を受けます。私たちは、さまざまなニュースを洪水のように聞かされますが、一喜一憂せずに、すこし見守ろうではありませんか。私たちの国です。私たちみなが安心できる方向へ進んでいくかどうかが一番肝心です。国の偉い人が、いったい私たちの国をどちらのほうへ、どのように進めていくのかを見守りましょう。「大きな出来事」が起きているらしいときには、むしろ、大きな文字の報道よりも、新聞の小さな欄などを丹念に読むほうが、自分の軸がわかる時があります。長い時間がかかってできた複雑なものごとを元に戻すためには、いま少しの時間が必要に思われます。根気強く、今度こそさまざまなことが良い方向へ向かうよう、注意を払い、智慧を集めましょう。

写真はすっかり葉を落としたいちょうの樹、そして先代住職の記念碑に夕日が当たっているところ。塔婆立ての影が、球形の石碑に渦のようにうつっています。そして玄関、みなさまお健やかに、3月のお彼岸でお会いできますのを楽しみに致しております。

平成22年2月1日  
大黒

